



教員名：
武山 良三
Ryoza Takeyama
専門分野：
サインデザイン



作品名：高岡市歩行者用サイン計画

制作年：2013～2014

制作体制：武山良三（アートディレクション）

宮沢 功（アドバイザー）

島津勝弘（デザイン）

伝統工芸高岡銅器振興組合（製作）

概要：北陸新幹線の開業を控えて、市内の回遊性を高めるために全市民的なサイン類の見直しを行った。既存のサイン調査から課題分析、他都市の類似例調査などを通じて、①パンフレットやWebとも共通した情報提供、②欧文表記やピクトグラムを用いた外国人観光客対応、③铸件産地らしい意匠の発信、を特徴とするサインデザインを行った。計画に当たっては市内に高岡市新サイン計画策定検討会議（筆者が議長）の設置を提案し、これを実現した。都市計画部署だけでなく観光や商工の担当者を含めて協議することで、総合的な情報提供を目指した。今後は、サイン計画で練られた地図をベースにパンフレットが印刷される予定である。





作品名：富山大学キャンパスサイン計画
制作年：2013～2014

制作体制：武山良三（アートディレクション）
島津勝弘（デザイン）

概要：富山大学施設整備計画の一環として3キャンパスにおけるサインの見直しを行った。五福・杉谷のキャンパスでは、学部や事務組織などの施設が数多く配置されており案内図が難解になっていたため、まずキャンパスをブロックに分けて、大きくゾーン記号で誘導し、各ゾーンに到着してから細かな施設案内を行う情報システムを構築した。また、各部局に割り当てられていた色彩を活用し、階段室に大胆に着色するなどして、わかりやすさとアイデンティティを両立する意匠を目指した。検討に当たっては全学の施設マネジメント委員会にサイン計画ワーキング部会（筆者が部会長）を設置し、各課キャンパスからの要望を集約しながら、きめ細かな対応を行った。

